

JICA海外協力隊グローバルプログラムとは? 開発途上国への国際協力を行う「国際協力機構(JICA)」が実施するプログラム。日本国内の自治体で地域活性化に向けた経験を積むことで、将来、国外で活動する際の課題解決能力を養うことを目的としています。この度、東谷拓馬さん(奈良県出身・29歳)と、平石守さん(神奈川県出身・25歳)が実習生として75日間本町に滞在し、課題解決に挑みます。活動に先立ち、お二人に加え、過去に協力隊としてエジプトで活動された経験をもつ青年海外協力協会の川島彰允さん(大阪府出身・39歳)にお話を伺いました。



東谷 拓馬さん

興味は、登山やマラソン、旅行など。プログラム終了後は、アフリカ大陸東部のルワンダ共和国へ派遣予定。
まず、(経歴を教えてください)
大学卒業後7年間、日本赤十字社で働き、献血や病院内の事務に関わる仕事をしていました。
次に、グローバルプログラム参加の経緯について教えてください
JICA海外協力隊として国内で様々な分野で取り組まれていた自治体や企業の方とお会いし、活動を共にさせていただくことでより多くの学びがあると感じたからです。本プログラムを通して得た知見や人との繋がりが、JICA海外協力隊での活動だけでなく今後の人生にとって良いものだと思います。
本町の印象はいかがですか?
地元と似ていて自然が豊かで親近感を感じました。また、行政と民間との距離が近いのが印象的でした。積極的に活動できる環境だと感じています。
ルワンダへ派遣後、今回のプログラムをどう生かしたいですか?



平石 守さん

派遣後は「コミュニティ開発」の隊員として、現地の身体障がい者施設や就労支援施設で活動する予定です。五城目町でたくさんの方と知り合い、派遣後も繋がりたいと思っています。
また、町外出身の私がここで活動する経験は、派遣国において、日本人の自分が現地の人と関わりを持つ際に生きてくると感じています。
趣味は、茶道やテニス、寺社巡りなど。プログラム終了後は、アフリカ大陸南部のボツワナ共和国へ派遣予定です。
まず、(経歴を教えてください)
理数科の高校を卒業後、大学では機械工学を学んでいました。卒業後は大学院へ進学し、がん治療の研究を行っています。
次に、グローバルプログラム参加の経緯について教えてください
大学入学当初は、研究者を志望していましたが、大学院進学後は、研究室に籠り過ぎりの生活を送っていました。その中で、今まで当たり前であった人と人との繋がりの大切さに気付いた



川島 彰允さん

過去に青年海外協力隊として国外派遣の経験をもつ。現在は、青年海外協力協会に所属し、協力隊候補生のサポートを行う。
青年海外協力隊としての活動経験について教えてください
20歳の時、協力隊としてエジプトで2年間活動しました。中学生からあこがれていたということもあり、日本から遠く離れたアフリカへ行くことは、不安よりも楽しみが強かった記憶が

ことで、今後の人生における様々な選択肢に対しても、人との出会い、繋がりがやそれらの経験がとても役立つと思い、当プログラムへの参加を決めました。
本町の印象はいかがですか?
あたたかい人が多いというのが第一印象です。県外から来た私たちに対しても、親切に町の歴史や町民の方々を紹介してくださいます。自由な発想で活動に取り組める素晴らしい環境だと思います。

ボツワナへ派遣後、今回のプログラムをどう生かしたいですか?
東谷さんと同じく、派遣後は「コミュニティ開発」の隊員として活動し、現地の生活環境の改善などに向けた取り組みを行う予定です。五城目町の皆さんに自分の好きな科学の話や、趣味である茶道の魅力などを伝えることで地域の方々と関わり合いを持つ経験は、派遣後、現地の方々と深い交流を持つことに生きてくると思います。

短歌

選者 大川 澄雄 (大瀧村)

入選一位『夏のかほり 森山』

(西野) 鎌田 康子

そこはかとかすかなかほり見上げれば 梢に朴のゆるりとひらく
甘やかなかほりをはなち数輪の山百合ゆるる谷風の道
足とめて汗ぬぐう吾にふうわりと石鯨のかほり 葛のむらさき

評 直観の閃きが表現の光沢となって表出。そこには町民皆が愛する森山の原風景があるのだ。草木花が揺れながら「いつでも豊つておいで」そんな声が聞こえて来そうだ。

入選二位『逝く夏』

(大川) 小熊 正明

息殺し蝉を捕りたる恍惚を 知らぬ少年の夏逝かむとす
もはやかの夏の輝きなきままに 蜻蛉はほろびの光を飛べり
舗装路に火照りの残る街を来て 秋呼ぶかすかな遠雷に会ふ

評 あの酷暑の夏は何だったのか、ゆるぎない調べの中に移りゆく季節の思いを深く、しかも自然の中に生きる営みを心象として巧みに詠んだ作者。言葉の響きが美しい。

入選三位『上を向いて』

(新畑町) 荒川 剛

警報の響くスマホに驚いた 母に笑顔で大丈夫だよ
平凡な日々もなんだか懐かしく 青空の下ただ片付ける
泣き顔を見せても神は知らんぶり ならば笑顔で空を見てやる

評 まだ若い人の作品であろうか、未嘗有の激甚災害に真剣に立ち向かう青年の姿が浮かんでくる。平明で素直な言葉の表現、気取りの無さが故に胸を打つ作品である。

俳句

選者 岩谷 塵外 (秋田市)

入選一位『荒梅雨』

(湯ノ又) 松橋 テル子

幾度も家のみこみし梅雨濁流 荒梅雨の小川も大河となり暴れ 里一円水攻めにして梅雨出水

評 七月の豪雨は五城目町に甚大な被害をもたらしました。句群はどの句も水害の恐ろしさを的確にまとめられます。被災された方々に皆様に心からお見舞いを申し上げます。

入選二位『夏豪雨』

(昭辰町) 本間 富子

かつてないわが町襲ふ夏豪雨 夢であれと幾度も問ふ水害を ありがたやボランティアの豆の飯

入選三位『星祭』

(八郎湯町) 北嶋 美保子

寝返りの出来て拍手や星祭 大泣きの乳児に負けず法師蝉 赤まんま上手にすする離乳食

評 幼児の成長が目に見えるようです。季語の「星祭」「法師蝉」「赤まんま」が奏功しております。幼児の健やかな成長と幸せな未来を祈って止みません。

入選四位『夏の雲』

(大川) 八柳 知徳

飛行機のかすめて行くや夏の雲 炎帝の猛る日々なり雲もなく 今日の日之余熱を残し夕焼雲

評 一句目の「夏の雲」の雄大な景色に惹かれました。また、一句目の「炎帝の猛る日々なり」と、二句目の「余熱を残し」に、この夏の猛暑が適切に表現されております。

川柳

選者 近藤 たつお (能代市)

入選一位『たまげた夏』

(八郎湯町) 小柳 文子

水強し冷蔵庫さえまったなし 和室減り畳のへりに夏帽子 分別はおらが役目と缶つぶす

入選二位『生きて生かされ』

(八田) 伊藤 豊子

まごひまご婆様ほまちのひもゆるむ おだてられ生きて生かされ草取女 ありがたうその一言に弱かった

評 いつの間にか高齢者になりました。家族に囲まれて幸せの時間を過ごされている様子が微笑ましい。「ほまち」は船乗りの「帆待ち」から。臨時収入のお金の「帆待ち」。

入選三位『空』

(新畑町) 荒川 剛

青空に明日の天気を願うだけ 美しい星で泣く人しやがむ人 その傘を捨てて見上げてごらん空

評 どうしようもないのでしょうか?青い地球にしゃがみこんでしまう人の何と多いことか。隣人と傘を放つて喜び溢れる空を見上げたいと思います。祈りのような句たちです。

入選四位『これから』

(新町) 大原 みどり

神様が決めるのですか生も死も 何気ない会話ひとつを愛おしむ ただありがたうこれまでもこれから

評 生も死も神様が決めるのです。授かりものだと思うのです。素朴な疑問と思いを平明な言葉で綴り、「ご自身の生き方の眩しさ」が感じられます。これまでも、これから……。

主催 五城目町教育委員会 五城目町芸術文化協会